

随時監査報告

1 監査の期日及び対象

監査期日	監査対象
平成27年12月21日	「佐久南交流拠点施設」 地域局 地域整備室
	「道の駅 ほっとば〜く・浅科」 経済部 観光交流推進課

2 監査の方法

監査にあたっては、随時監査調書等、あらかじめ提出を求めた資料に基づき、関係職員から説明を聴取するとともに関係書類の監査を実施しました。

3 監査の着眼点

- (1) 「佐久南交流拠点施設」の整備事業について、現況はどうなっているか。
- (2) 「道の駅 ほっとば〜く・浅科」の経営状況はどうか。
- (3) 各担当課において施設の特色を勘案した経営計画を作成しているか。
- (4) 類似施設が近隣に建設されるが両施設の共存共栄策についてどのように考えているか。

4 監査の結果及び意見

監査を行った結果、改善を要する事項及び意見については、次のとおりです。

「佐久南交流拠点施設」は、中部横断自動車道利用者へ向けたサービスエリアとしての役割を兼ねた施設であり、佐久市の産業全般の振興を担う拠点の一つとなる施設として建設されます。平成29年7月の開業に向けて、建築実施設計業務を進めており、平成28年1月からの造成工事着工に向けて諸手続きをすすめているところです。また、施設の管理運営を担う指定管理者の公募を11月から行い、12月の募集終了時には、数件の応募があり、現在審査中であることを確認しました。

また、国土交通省による、中部横断自動車道及び国道142号の将来交通量データ及び立寄率等により試算した結果、約140万人の入場者数を見込んでおり、近隣の同等施設のデータを参考に試算すると、このうち30%の40万人程度が売店等を利用することを想定しています。

「道の駅ほっとば〜く・浅科」は、平成10年6月に長野県内第22番目の道の駅として開業し、指定管理者制度（利用料金制）により、佐久市振興公社による運営を経て、今年度から民間事業者（株式会社あさしな小泉）が管理運営を行っています。平成26年度の実績は、年間利用者数は約50万人で、このうち約12%の約6万人が売店

を利用しました。平成27年度の11月までの利用者数は33万8千人で、このうち売店、レストランの利用者は約7万人です。また、平成27年度の運営経費予算額は92,837千円で、徐々に売上を伸ばしてきており、決算時にはある程度の黒字に転じると見込んでいます。

両施設は、国道142号を前面道路とし約4km離れた地点に位置しています。いずれも国道及び中部横断自動車道の利用者の休憩施設及び地域活性化の拠点を目的としているため、経営計画において明確な相違点がないと、利用客が半減し存続が危ぶまれることが懸念されます。担当課においては、類似の既存施設の成功事例等を参考に検討する必要があると考えます。

経営計画については、各施設の指定管理仕様書等の比較により確認を行いました。その結果、規模の差はあるものの事業内容（項目上）においては大きな差異が見られません。今後、指定管理者制度の特徴である民間の経営上のノウハウを十分に取り入れ、各施設で利用者を引き付けるアピールポイントを見出すことを期待します。

また、「佐久南交流拠点施設」の開業後の担当課が未決定とのことですが、両施設相互の協力も必要であることから、早期に移管先を決定してください。

平成29年度中には中部横断自動車道が（仮称）八千穂ICまで延伸される予定であります。佐久南ICをただ通過されないよう、両施設とも地域の特色を打ち出し共存共栄を図るよう努めてください。